

平成26年度

事業報告書

一般財団法人 日本視聴覚教育協会

平成 25 年 6 月に閣議決定された「第 2 期教育振興基本計画」には「I C T の活用等による新たな学びの推進」が主な取り組みの 1 つに挙げられている。政府や自治体による試行的な取り組みが進められる中で、I C T を活用した授業の姿が具体化され、それに伴い I C T 環境の整備やデジタル教材の標準化などの条件整備とともに、質の高い教育を提供するために、教員研修や教員養成での I C T 活用指導力の向上が求められている。

社会教育においては、市民の社会参加を促す動きが活発化している中で、従来の視聴覚教育の手法を積極的に取り入れ、如何に I C T 等を活用した教育方法の充実を図っていくかが課題となっている。

これらを受けて、86 年という歳月の積み重ねを持つ当協会としては、これまで培ってきた豊かな「視聴覚教育」の知見を活かし、関係団体との連携を強化しつつ、日常的な学習の場において、I C T を活用した教育が実践されるよう普及事業を実施した。

継続事業については、I C T 活用を普及促進するための研修・研究事業、映像教材製作奨励事業、及び利用・普及のための出版事業の柱のひとつである月刊「視聴覚教育」誌については、内容面での一層の刷新・充実に努めるとともに、新たな購読者・賛助会員の増加につながるよう、全力をあげて努力を重ねた。

一般財団法人としての責務を果たすべく、継続事業及びその他事業の内容については、以下の報告のように実施した。

継続事業 1 視聴覚教育を利用した教育方法改善のための研究・普及事業

1. 教育 I C T 活用 普及促進のための研修の実施
2. 視聴覚教育総合全国大会の開催
3. 新たに開発された視聴覚教材・機器の周知のための展示会の開催
4. インターネット W e b 活用による情報提供

継続事業 2 優れた映像教材の制作確保と制作奨励事業

1. 優秀映像教材選奨
2. 中央大会
3. 視聴覚教育功労者顕彰
4. 夏休みこども映画フェア

継続事業 3 学習に対応するきめ細かな自作視聴覚教材の奨励・普及事業

1. 全国自作視聴覚教材コンクール

継続事業 4 視聴覚教育利用・普及のための出版事業

1. 月刊「視聴覚教育」誌の刊行
2. 視聴覚教育関係刊行図書

その他事業

1. 巴町アネックス2号館の不動産賃貸事業
2. 子どもの科学への関心を育てる科学映像祭事業
3. 視聴覚教育研究者への井内賞贈呈事業
4. 視聴覚教育を活用した教育方法改善事業
5. 子ども教材開発事業
6. 国際教育メディア協議会（I C E M）とその加盟国との交流事業
7. 賛助会員のための活動
8. 後援事業等
9. 庶務の概要

継続事業1 視聴覚教育を利用した教育方法改善のための研究・普及事業

社会の情報化により情報ネットワークが進展していく中で、教育効果が上がるように、適切に映像や画像を活用する方法を研究・普及する視聴覚教育の分野においても、従来利用されていた視聴覚教材・教具に加え、I C Tを活用した教育方法の改善が図られている。また、視聴覚教育を取り巻く環境も、I C Tの導入により大きな変革がもたらされている。これまで当協会が、継続し蓄積してきた教育方法改善のための研究・普及事業について、以下の4項目で事業を進め、教育関係者に向けて視聴覚教育を利用した教育方法改善のための研究成果を提案した。

1. 教育I C T活用 普及促進のための研修の実施

文部科学省が進める教育方法改善のための施策を踏まえ、全国の学校において電子黒板、タブレット端末などのI C T教材・機材を活用した教育への波が押し寄せ、視聴覚教育を取り巻く環境も、大きな変革がもたらされている。そのような中で、I C Tを効果的に教育活用するための情報が求められていることから、平成22年度に当協会が中心となり、民間主導による「教育I C T活用普及促進協議会」を立ち上げ、I C T関連企業の協力を得て、「教育I C T活用実践研究事業」を展開した。平成23年度、平成24年度の2年間、文部科学省委託「国内のI C T教育活用好事例の収集・普及・促進に関する調査研究事業」を受託し、研究発表会において展示研究等を通じて、I C T教材・機材の体験研修を実施した。平成25年度からは、これまでの調査研究事業において継続して蓄積された多くの成果をもとに、視聴覚教育の振興と教育方法の改善のために、日本視聴覚教具連合会と連携し、以下の項目により教育I C T活用普及促進のための研修を実施している。

（1）「eスクール ステップアップ・キャンプ」

本事業は、I C T活用の「認知から定着」を図るために、最新テクノロジーによる教材・教具に関する研修を通して、学校現場で必要とされる各段階のI C T活用に応じて、具体的体験的な情報提供を目指すとともに、学校現場等の実態を踏まえ、これからのI C T活用研修の在り方についての方向を示すことを目的としていた。

平成26年度、文部科学省は「I C Tを活用した教育の推進に資する実証事業」として実証研究テーマ①I C Tを活用した教育効果の検証方法の開発、②I C Tの活用が最適な指導方法の開発、③教員のI C T活用指導力向上方法の開発、の3本を設けて委託事業とした。この事業を受託したNTTラーニングシステムズ株式会社から、協会に対して協力要請があり、検討の結果、これまで蓄積した教員向けI C T研修の知見を活かして協力することとした。具体的には、テーマ③教員のI C T活用指導力向上方法の開発、において「校内研修リーダー」養成研修モデルカリキュラムの開発と、それに基づいたワークショップによる実証研修を、東西2地域で開催した「eスクール ステップアップ・キャンプ」に組み込んで実施し、効果的な研修実施のための「研修手引き」の作成に貢献した。

本実証事業への協力にあたっては、その背景として、すべての教員に積極的なＩＣＴ活用を促す新しい研修プログラムを開発するという喫緊の課題に対応して、平成 25 年度、ＮＴＴラーニングシステムズ株式会社と連携し、ＮＴＴグループが実施する「教育スクウェア×ＩＣＴフィールドトライアル」における実践をふまえ、「教育ＩＣＴ普及のための教員研修プログラム開発を目的とした研究会」を設立し、教員向けＩＣＴ研修に関する研究を進め、成果を取りまとめたことがベースとなっている。その成果報告は、月刊「視聴覚教育」第 68 巻 5 号に掲載している。

「e スクール ステップアップ・キャンプ 東日本大会・西日本大会」の実施

文部科学省の共催を得て「e スクール ステップアップ・キャンプ」と題した教育ＩＣＴ活用研修会を、日本視聴覚教具連合会ＩＣＴ活用委員会、学識経験者、ＮＴＴラーニングシステムズ株式会社、教材・教具メーカーと連携し、実施に関わる協力態勢を整え、全国を東西に区分し、2 か所で実施した。また、昨年度までと同様に「研修会」の会場において、「ＩＣＴ教材・機材体験展示会」を開催し展示研究を実施した。研修企画及び研修会における指導助言については「ＩＣＴを活用した教育の推進に資する実証事業」のテーマ③「教員のＩＣＴ活用指導力向上方法の開発」の専門委員が担当した。

1. 主 催 一般財団法人日本視聴覚教育協会、日本視聴覚教具連合会
2. 共 催 文部科学省
3. 後 援 全国連合小学校長会、全日本中学校長会、国立教育政策研究所、開催地教育委員会
4. 事業内容 模擬授業、デジタルポスターセッション、パネルディスカッション
「校内研修リーダー」養成研修ワークショップ
ＩＣＴ教材・機材体験展示会
5. 開催状況
「e スクール ステップアップ・キャンプ」東日本大会
日時 平成 26 年 11 月 14 日（金）
場所 日石横浜ホール・会議室
参加者 519 名
「e スクール ステップアップ・キャンプ」西日本大会
日時 平成 26 年 12 月 20 日（土）
場所 梅田スカイビル（タワーウエスト）・アウラホール・会議室
参加者 564 名

なお、「ＩＣＴ教材・機材体験展示会」は、平成 26 年 9 月 5 日（金）、文部科学省主催「情報教育担当者連絡会議」及び平成 27 年 3 月 13 日（金）、文部科学省委託事業「ＩＣＴを活用した教育の推進に資する実証事業」の成果報告会が文部科学省講堂において実施され、両日とも同会場ホワイエにおいて協力開催した。

また、「e スクール ステップアップ・キャンプ」の事業を普及するために、新たにＷｅｂサイトを立ち上げ、東日本大会・西日本大会についての情報提供、参加募集、参加登録の場とし、参加者管理システムとして運用した<<http://www.javea.or.jp/ict/>>。

2. 視聴覚教育総合全国大会の開催

今日の高度情報化社会、生涯学習社会にあつて、視聴覚教育の研究・普及に関わる 3 団体（日本学校視聴覚教育連盟・全国高等学校メディア教育研究協議会・全国視聴覚教育連盟）が共通の視点に立ち、当協会は大会事務局として 3 団体の連絡調整にあたり、視聴覚教育の在り方を追求する機会として視聴覚教育総合全国大会を開催してきた。平成 26 年度第 18 回視聴覚教育総合全国大会（東京・川崎大会）は、第 65 回放送教育研究会全国大会と合同の大会とし、大会テーマ「ネットワーク社会におけるメディアとヒューマンコミュニケーション」のもと、平成 26 年 11 月 21 日（金）、22 日（土）の 2 日間、国立オリンピック記念青少年総合センターを主会場に、川崎市内の保育園・小・中・高等学校、足立区こども未来創造館において、以下の内容で開催され、延べ 1,150 名の参加者を得た。
<第 1 日 11 月 21 日（金）>

・公開保育・公開授業

社会福祉法人春献美会　くろかわのぞみ保育園、川崎市立はるひ野小学校、川崎市立はるひ野中学校、川崎市立高津高等学校、ギャラクシティ（足立区こども未来創造館）

・テーマ別研究交流

①健やかな心を育てる放送番組活用　②子どもが生き生きと学ぶ放送学習（小学校）　③豊かな心を育てる放送番組活用（小学校）　④発達段階と実態に応じた情報モラル教育（小学校）　⑤放送番組を活用した学級作り・特別支援を必要としている子どもたちのために（小中特）　⑥生き生きと学ぶ子どもを育てる放送学習（中学校）　⑦ICTを活用した新たな授業づくり（中学校）　⑧ICTを活用した新たな授業づくり（高等学校）　⑨デジタル時代に対応した生涯学習メディアの活用（生涯学習）

<第2日 11月22日（土）>

・団体別研究

国立オリンピック記念青少年総合センター

①日本学校視聴覚教育連盟「ICTを活用した21世紀にふさわしい学びの実現」　②全国視聴覚教育連盟・公立視聴覚センター連絡協議会「メディア研修の充実と新たなメディア利用の可能性」　③全国視聴覚教育連盟・全国公立視聴覚センター連絡協議会「新たな学習機会の在り方やネット環境の活用」　④全国高等学校メディア教育研究協議会「ICTを活用した新たな授業づくり」　⑤全国放送教育研究会連盟「放送番組のよさを生かした授業づくり（ワークショップ）」　⑥一般・OB「テレビは何を伝えてきたか」

・開会式、功労者表彰、NHKプレゼンテーション、シンポジウム「これからの視聴覚教育・放送教育に期待するもの」

以上の内容で行われた。

3. 新たに開発された視聴覚教材・機器の周知のための展示会の開催

2014 教育コミュニケーションズ IN JAPAN（第50回教育の近代化展）

平成25年度に引き続き26年度も日本視聴覚教具連合会との共催により、第18回視聴覚教育総合全国大会・第65回放送教育研究会全国大会 合同大会（東京・川崎大会）の主会場となった国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて、2014 教育コミュニケーションズ IN JAPAN（第50回教育の近代化展）を開催。大会に参加した学校教育・社会教育分野の視聴覚教育関係者を対象として、視聴覚教材・機材の新製品を中心とした展示会を実施した。

日時 平成26年11月22日（土）

場所 国立オリンピック記念青少年総合センター小ホールロビー

参加企業・団体 13社

4. インターネットWeb活用による情報提供

昭和62年から継続して蓄積を進めている「映像メディア情報データベース」は、昭和50(1975)年からの文部科学省選定、教育映像祭優秀映像教材選奨受賞作品を中心とする映画、ビデオ、DVD等の視聴覚教材情報を登録しており、協会ホームページで情報提供している。平成27年3月末現在で、8,207件を登録、整理した。

Web活用による情報提供では、「教育映像祭」等主催事業における行事の成果等の情報を更新するとともに、「子どもゆめ基金」の助成を受けて開発したWeb教材「けん玉で楽しくあそんでみよう！」のサイトを作成公開し、継続して情報提供を行った。

また、事務所移転を機会にホームページレイアウトを一新、パソコンの他、スマートフォンやタブレット等、端末ごとに最適化されたレイアウトで閲覧できるようにした。

「日本視聴覚教育協会」　<<http://www.javea.or.jp/>>

継続事業２ 優れた映像教材の制作確保と制作奨励事業

視聴覚教育の一層の普及と振興を目的として昭和 29（1954）年に開催されてから、毎年、「教育映像祭」の名称で「優秀映像教材選奨」、「中央大会」、「視聴覚教育功労者顕彰」、「夏休みこども映画フェア」を内容に東京を会場として実施している。

1. 優秀映像教材選奨

優れた映像教材の制作奨励のため、教育映像祭行事の一環として、「平成 26 年度優秀映像教材選奨」を行った。メディア別による構成は、小学校（幼稚園含）、中学校、高等学校の各部門においては、【教育映像】及び【教育映像コンテンツ】の別、社会教育部門、職能教育部門、児童劇・動画部門、教養部門は、【教育映像】のみにより募集し、審査は当協会会議室において行った。

参加作品は、

【教育映像】映画・ビデオ・DVD

小学校（幼稚園含）部門 16 作品（全て DVD）

中学校部門 13 作品（全て DVD）

高等学校部門 6 作品（全て DVD）

社会教育部門 30 作品（全て DVD）

家庭生活向（8 作品）

市民生活向（22 作品）

職能教育部門 34 作品（全て DVD）

児童劇・動画部門 1 作品

教養部門 2 作品（全て DVD）

計 20 社・102 作品

【教育映像コンテンツ】コンピュータ教材（DVD・CD）

小学校部門 1 作品

以上の作品を対象に、審査は、審査委員を学校や社会教育などの教育現場の指導者、学識経験者、関係機関や団体の代表者や各界の専門家など 35 名に委嘱し、6 月 11 日から 7 月 14 日までの期間に行い、7 月 25 日の最終審査の結果、最優秀作品賞（文部科学大臣賞）4 作品、優秀作品賞 29 作品が、それぞれ選ばれた。表彰式と発表会は、後述の教育映像祭中央大会で行われた。

入賞作品は次の通り。

■ 最優秀作品賞（文部科学大臣賞）4 作品 ■

【教育映像】

○小学校（幼稚園含）部門

〔特別活動〕

命を守れますか？ 地しんのとき つ波のとき（DVD／21 分）（株）映学社

○中学校部門

〔特別活動〕

悩まずアタック！ 脱・いじめのスパイラル（DVD／33 分）（株）映学社

○高等学校部門

〔情報〕

ケータイ社会と情報モラル Vol. 2 スマートフォンの利便性と危険性ー（DVD／33 分）

（株）NHKエンタープライズ

○社会教育部門

〔市民生活向〕

imagination（イマジネーション） 想う つながる 一歩ふみだす（DVD／34 分） 東映（株）

■ 優秀作品賞 29 作品 ■

【教育映像】

○小学校（幼稚園含）部門

〔国語〕

ビジュアル 言語活動シリーズ 聞く・話す・伝える ①対話・話し合いをしよう（DVD／25分）
（株）サン・エデュケーショナル

〔国語〕

ビジュアル 言語活動シリーズ 聞く・話す・伝える ③スピーチ・説明をしよう（DVD／25分）
（株）サン・エデュケーショナル

〔特別活動〕

ひとりぼっちはいやだよーみんなでなくそう いじめー（DVD／20分）（株）映学社

〔特別活動〕

危険な目に あわないぞ！ ナナミパパの青空防犯教室（DVD／18分）東映（株）

○中学校部門

〔国語〕

ビジュアル 古典の背景①平安の文化と貴族の世界（DVD／25分）
（株）サン・エデュケーショナル

〔社会〕

シリーズ映像で見る人権の歴史（1）東山文化を支えた「差別された人々」（DVD／16分）
東映（株）

〔理科〕

Eternal Return ーいのちを継ぐものー（DVD／39分）（有）ライブ

〔保健体育〕

知ってよかった応急手当ー災害・事故・急病から命を救うー＜ガイドライン 2010 対応＞（第1巻・第2巻）（DVD／43分）（株）映学社

〔保健体育〕

ドラッグの悲劇 脱法ハーブが奪った未来（DVD／19分）東映（株）

〔道徳〕

新・ケータイネット社会の落とし穴 事例で学ぶスマートフォンのトラブルと対策（DVD／39分）（株）NHKエンタープライズ

○高等学校部門

〔家庭〕

日本と世界の衣服ー見て楽しむ伝統的な衣服ー（DVD／19分）（株）NHKエンタープライズ

〔家庭〕

日本と世界の食文化ー見て楽しむ伝統的な料理ー（DVD／20分）（株）NHKエンタープライズ

○社会教育部門

〔家庭生活向〕

パパもいっしょに見たい！聞きたい！ はじめての赤ちゃんのこと 第2巻赤ちゃんの生活・健康・安全（DVD／23分）（株）ビデオ・パック・ニッポン

〔家庭生活向〕

家庭の中の人権 カラフル（DVD／31分）東映（株）

〔家庭生活向〕

「いじめ」の早期発見と対策シリーズ第3巻ー保護者編ー（DVD／26分）（株）日経映像

〔市民生活向〕

今すぐチェック！ 自転車の交通ルール（DVD／16分）（株）教配

〔市民生活向〕

避難所の開設・運営 その時、皆さんの力が必要です（DVD／17分）パール商事（株）

〔市民生活向〕

最期の願い どうする自宅での看取り（DVD／26分）（株）映学社

〔市民生活向〕

被害多発！危険なクリックー20代30代をねらうネットの罠ー（DVD／19分）（株）映学社

〔市民生活向〕

秋桜の咲く日 (DVD/34 分) 東映(株)

[市民生活向]

終わりのなき悔恨―飲酒運転の果てに― (DVD/28 分) 東映(株)

○職能教育部門

映像で感じ、考える、これからの在宅看護論 第5巻 様々な在宅看護の実践―これからの在宅看護を色々な実践の場で感じよう― (DVD/38 分) (株)ビデオ・パック・ニッポン

基礎看護技術マスターシリーズ 移動・移乗・移送 (DVD/34 分)

(株)ビデオ・パック・ニッポン

大地震に備える防災対策安全シリーズ 幼い命を守れ! どう教える「避難の方法」 幼稚園、保育所の防災対策 (DVD/26 分) (株)映学社

現代的なリズムのダンスの教え方 生徒の「自由」を引き出す「カタチ」 (DVD/69 分)

東映(株)

新・人権入門 (DVD/25 分) 東映(株)

○児童劇・動画部門

ココロ屋 (DVD/25 分) 東映(株)

○教養部門

自然を知る新たな知を求めて―映像で語る生命誌研究館の20年― (DVD/36 分)

(株)生命誌研究館

鬼来迎 鬼と仏の生きる里 (DVD/38 分) (株)桜映画社

※【教育映像コンテンツ】入賞作品なし

2. 中央大会

平成 26 年 9 月 12 日、東京霞ヶ関・東海大学校友会館において、「優秀映像教材選奨」及び「全国自作視聴覚教材コンクール」の文部科学大臣表彰・日本視聴覚教育協会会長表彰、並びに文部科学省が実施する「視聴覚教育・情報教育功労者」文部科学大臣賞表彰及び当協会主催による「視聴覚教育功労者・中央功労者」の日本視聴覚教育協会会長表彰を実施した。「優秀映像教材選奨」文部科学大臣表彰を受賞した作品の中から「命を守れますか? 地しんのとき つ波のとき」<映学社>、「ケータイ社会と情報モラル Vol. 2 スマートフォンの利便性と危険性」<NHKエンタープライズ>、「imagination (イマジネーション) 想う つながる 一歩ふみだす」<東映>、の3作品の上映を行った。

3. 視聴覚教育功労者の顕彰

(1) 中央功労者

本年の中央功労者は、視聴覚・放送教育の実践と普及に尽力、今日の発展に貢献し、永年にわたって功績のあった篠原文陽児、濱崎由昭の2氏に決定。表彰は、中央大会の席上で行った。

(2) 各地功労者

全国の各地域で視聴覚教育の実践、普及または研究開発等に尽力し、視聴覚教育の振興に貢献した者で、本年は35名に決定した。

4. 夏休みこども映画フェア

東京都小学校視聴覚教育研究会と共催により、「第15回 夏休みこども映画フェア」は、平成 26 年 8 月 19 日、東京・文京シビックホールにおいて開催した。参加者は、都内の小学生及び父兄で、300 人の参加を得た。

上映作品は、「きつねとぶどう」「字のないはがき」(学研)、「金色のクジラ」(東映)、「約束」(桜映画社)、「がんばれスイミー」(北星)、以上5作品を上映した。

継続事業3 学習に対応するきめ細かな自作視聴覚教材の奨励・普及事業

学校教員や社会教育関係者等が制作した自作視聴覚教材を対象として「全国自作視聴覚教材コンクール」を実施する。このコンクールは、昭和 49（1974）年に開始され、毎年当協会が主催して全国研究組織団体の共催を得て実施している。

一般財団法人日本視聴覚教育協会主催、日本学校視聴覚教育連盟、全国高等学校メディア教育研究協議会、全国視聴覚教育連盟共催、文部科学省後援による平成 26 年度（第 41 回）全国自作視聴覚教材コンクールは、全国からの応募総数 104 作品（小学校部門＜幼稚園及び保育所を含む＞28 作品、中学校部門 15 作品、高等学校部門 6 作品、社会教育部門 55 作品）を対象に、予備審査委員を小学校部門 3 名、中学校部門 3 名、高等学校部門 3 名の学校現場指導者及び社会教育部門 3 名を社会教育現場指導者に委嘱し、慎重に審査を進め、本審査を 7 名の有識者及び各団体・機関の代表により 8 月 13 日、14 日の 2 日間にわたって行い、最終審査の結果、以下の入賞作品を決定した。

このコンクールは、学習内容が多様化した今日、それに対応するきめこまかい自作教材の制作と確保がきわめて重要であり、そのため本格的な視聴覚教材の自作活動を促進するために実施するもの。なお、本コンクールの表彰式及び作品発表会は、9 月 12 日（金）、東京霞が関・東海大学校友会館で開催の「中央大会」の中で実施した。

＜小学校部門（幼稚園及び保育所を含む）＞

文部科学大臣賞＜最優秀賞＞

該当作品なし

優秀賞

「空のげん関・新千歳空港」＜ビデオ＞ 札幌市視聴覚センター

「アルミ缶の旅」＜ビデオ＞ 宮脇克彦（愛媛県松山市立伊台小学校）

入選

「するめ天旗－仙台風の会の思い－」＜ビデオ＞

仙台市小学校教育研究会視聴覚教育研究部会教材制作委員会 B 部会

「大府市の農業 なし作り－ジャンボなし「新高」－」＜ビデオ＞愛知県大府市視聴覚教育研究会

「わたしたちのくらしと農業 りんごづくり」＜ビデオ＞

大野進二（山口県防府市視聴覚ライブラリー運営委員）

＜中学校部門＞

文部科学大臣賞＜最優秀賞＞

「空気を探る－空気自動車から－」＜ビデオ＞

愛知県岡崎市視聴覚ライブラリー・おかざき映像教材研究会

優秀賞

「ベッサッソン」＜ビデオ＞ 長野県諏訪市立諏訪中学校 1 年 2 部

「2013 鳴門市第一中学校人権劇『命どう宝』」＜ビデオ＞

平成 25 年度徳島県鳴門市第一中学校生徒会

入選

「ゆあハート・まいハート」＜ビデオ＞宮城県栗原市立築館中学校平成 25 年度保健給食委員会

「Windows アプリ『Gifu 中数研学習ソフト』－中数研コンピュータ委員会開発ソフト－

＜コンピュータソフトウェア＞ 岐阜県中学校数学教育研究会コンピュータ委員会

＜高等学校部門＞

文部科学大臣賞＜最優秀賞＞

「続・イモリの発生」＜ビデオ＞ 富山第一高等学校自然科学部（富山県富山市）

優秀賞

該当作品なし

入選

「『奈良の奇祭』廣瀬神社の砂かけ祭」＜ビデオ＞ 奈良県立法隆寺国際高等学校放送局

「視覚の不思議－アニメの原理－」＜ビデオ＞ 愛媛県立今治西高等学校放送部

＜社会教育部門＞

文部科学大臣賞＜最優秀賞＞

「伝統工芸 深山和紙」＜ビデオ＞ 羽鳥允祥（米沢自作視聴覚教材制作研究会・山形県米沢市）

優秀賞

「受け継がれる伝統 篠路獅子舞」＜ビデオ＞ 札幌市視聴覚センター

「三河木綿－伝統を紡ぐ人々－」＜ビデオ＞

愛知県岡崎市視聴覚ライブラリー・おかざき映像教材研究会

「といといの子どもたち」＜ビデオ＞ 大野進二（山口県防府市視聴覚ライブラリー運営委員）

入選

「交通安全紙芝居『うさぎとかめ』」＜紙しばい＞ 宮城県大崎市市民協働推進部防災安全課

「おそのぎつね」＜OHP教材＞ 上山昔ばなし切り絵の会（山形県上山市）

「つながぞ！綱木獅子踊り」＜紙しばい＞ 折原由美子（山形県山形市）

「トカチカ八兵衛」＜紙しばい＞ 八幡よみきかせ隊（山形県酒田市）

「郷土の偉人 結城豊太郎 ふるさとは国の本なり」＜ビデオ＞ 南陽８ミリクラブ（山形県南陽市）

「楽器を作る喜び」＜ビデオ＞ 佐藤利一（NHK群馬ビデオクラブ・群馬県前橋市）

「地域に育まれる 通学合宿」＜ビデオ＞ 林田敏美（長崎８ミリビデオクラブ・長崎県諫早市）

「日本蜜蜂の分蜂－蜂蜜の出来るまで－」＜ビデオ＞ フレッシュ薩摩（鹿児島県鹿児島市）

継続事業４ 視聴覚教育利用・普及のための出版事業

昭和 22（1947）年 2 月「映画教室」と題して創刊し、時代の変遷とともに「映画教育」、さらに現在の「視聴覚教育」と改題し、今日、刊行されている視聴覚教育に関する唯一の月刊専門誌である。また、視聴覚教育関係刊行図書として、視聴覚教育を活用した教育方法改善に関する解説書、調査年報等を学校教育、社会教育、産業教育関係者等に広く頒布することで、普及・振興を図るものである。

1. 定期刊行物の発行

月刊「視聴覚教育」誌（毎月 1 回）では、25 年度同様、編集委員を 5 氏に依頼し、内容について、検討・指導を得て編集を行い、第 68 巻 4 号から第 69 巻 3 号まで発行した。

＜主な内容＞

第 68 巻 4 号「教育情報化の推進に係る地方財政措置の予定について」「e スクールステップアップ・キャンプ西日本大会・東日本大会報告」「レポート ICT 教育活用研修の推進(1) 佐賀県における、教職員対象の ICT 教育活用研修の取組」「実践事例 ICT 教育活用の定着をめざして(1) 教員と生徒が共に学び・育てる ICT 活用力」

5 号「科学する心」を育てる 第 12 回全国こども科学映像祭」「平成 25 年度 教育 ICT

普及のための教員研修プログラム 開発を目的とした研究会 報告」

- 6号 「創刊 800 号記念特集」『座談会 視聴覚教育 未来へつなぐメッセージ』『日本視聴覚教育協会 蔵書一覧』『教育メディア関係行政一覧』『e スクールステップアップ・キャンプ 2013 活動報告書から ICT 活用に関する教員研修についての意識』
- 7号 「全国視聴覚教育連盟 創立 60 周年記念特別研究プロジェクトⅠ.『メディア活用研修モデル事例調査』新潟県立生涯学習推進センターの事例報告Ⅱ.『組織間ネットワークシステム構築』富山県民生涯学習カレッジ・富山県映像センターの事例報告
- 8号 「ICT を効果的に活用した『新しい学び』ー学びのイノベーション事業実証研究報告書についてー」「社会通信教育において共通利用が効果的な ICT 活用システムに関する調査研究『ICT を活用した共通利用システムの在り方等に関する報告書』
- 9号 「平成 26 年度 教育映像祭 受賞の栄に輝く優秀作品と功労者」「平成 26 年度 全国自作視聴覚教材コンクール入賞作品発表」
- 10号 「平成 26 年度教育映像祭中央大会 文部科学大臣表彰 視聴覚教育・情報教育功労者」「学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果」
- 11号 「教育情報化推進と総合教育会議の設置についてー地方交付税措置による整備推進ー」「平成 26 年 著作権法改正の解説」
- 12号 「第 8 回日本視聴覚教育協会・井内賞受賞論文発表」
- 第 69 巻 1号 「論考 ICT を活用した学び合い授業の先進的な取り組み」「平成 26 年度 文部科学省共催 e スクール ステップアップ・キャンプ 2014 東日本大会 概要」
- 2号 「平成 26 年度 文部科学省共催 e スクール ステップアップ・キャンプ 2014 西日本大会 概要」「第 18 回 視聴覚教育総合全国大会 第 65 回 放送教育研究会全国大会合同大会報告」「人口減少社会における ICT を活用した実証事業と情報モラル育成プロジェクトについて」
- 3号 「e スクール ステップアップ・キャンプ 2014 西日本大会 基調講演から教育の情報化の動向ー教育の ICT 活用指導力向上を中心にー」「“科学する心”を育てる第 13 回『全国こども科学映像祭』

2. 単行本その他の発行、制作及び公開

調査年報等に加え、教育方法改善に関する解説書として「授業の基礎としてのインストラクショナルデザイン」を平成 16 年に刊行したが、毎年一定の引合いがあることから、改訂版第 3 版を刊行した。

- 1) 「視聴覚センター・ライブラリー一覧」(平成 26 年度版)
- 2) 「生涯学習研究 e 事典」(Web)
- 3) 「全国公立視聴覚センター要覧 2014 年版」
- 4) 「視聴覚機器ガイドブック 2015 年版」
- 5) 「授業の基礎としてのインストラクショナルデザイン 改訂版 第 3 版」

その他事業

1. 巴町アネックス 2 号館の不動産賃貸業

東京都港区虎ノ門 3 丁目 8 番 27 号 巴町アネックス 2 号館 地上 9 階 地下 1 階 塔屋 1 階の内、当協会が所有する 1 階、2 階、4 階、9 階スペースを賃貸する事業である。

協会が昭和 36 (1961) 年に森ビル株式会社と共同建築で所有していた「視聴覚ビル」(土地面積 134.54 平米、営業坪面積 1、2、9、10 階 (合計 944.03 平米)) は、耐震性の問題から、大改修を通告された。当協会としては、経済問題等を考慮し、安定を図るため、森ビル株式会社と交渉し、「巴

町アネックス 2 号館」(土地面積 118.34 平米、営業坪面積 1、2、4、9 階(合計 569.66 平米))を平成 18(2006)年 3 月 27 日付けで等価交換をもって取得した。賃貸運営については、家賃収入の安定化を図るため、森ビル株式会社が協会より一括して借り上げ、森ビルが貸主として各テナントに転貸する転貸方式で運営している。

協会が所有する「巴町アネックス 2 号館」の空調機に関して、部品の製造販売が中止されたことにより、故障が生じた場合、テナントへの影響が出る状況となったため、協会の持ち分に応じて改修工事を実施した。

2. 子どもの科学への関心を育てる科学映像祭事業

子どもたちの科学への関心を喚起し、カメラの目を通して科学の楽しさ・素晴らしさを理解させ、子どもたちの“科学する心”を育むことを目的とした、子どもたち自身の制作による科学映像作品のコンクール事業である。

「第 13 回全国こども科学映像祭(ビデオコンクール)」は、公益財団法人ニューテクノロジー振興財団、公益財団法人つくば科学万博記念財団、独立行政法人科学技術振興機構との共同主催で開催することとし、平成 26 年 5 月 28 日第 1 回運営委員会を開催し、(1)開催要項(案)、(2)審査方針、(3)審査委員の委嘱等について協議し、応募を開始することとした。なお、協会は事務局を担当した。

今回の応募作品は、総計 112 作品、内訳は小学生部門 65 作品、中学生部門 47 作品であった。

平成 26 年 11 月 7 日の審査委員会及び 11 月 13 日の運営委員会において、以下の作品が受賞と決定した。

文 部 科 学 大 臣 賞 (最優秀作品賞)

<小学生部門>

「アリジゴクの変身と巣のひみつ」中沢 藍、 長野市立長沼小学校 4 年(長野県)

<中学生部門>

「ヒトは壁を登れるか」サイエンス部壁登る班 八丈町立三原中学校(東京都)

優 秀 作 品 賞

<小学生部門>

「炭酸水で植物を育ててみよう!Part2」位高 響子 私立宝仙学園小学校 6 年(東京都)

「動く川〜矢作川の謎にせまる〜」内田 桜綾 岡崎市立大樹寺小学校 6 年(愛知県)

<中学生部門>

「アサガオ〜新たな花の色を求めて〜」杉山 杏那 岡崎市立竜海中学校 3 年(愛知県)

「ハチジョウノコギリクワガタの研究」サイエンス部ノコギリクワガタ班 八丈町立三原中学校(東京都)

佳 作

<小学生部門>

「つるの研究 〜つるはどうやってまくのかな〜」大川 果奈実 藤枝市立高洲南小学校 5 年(静岡県)

「アシナガバチのくらし」松井 一真 私立帝塚山学院小学校 2 年(大阪府)

「アリの研究〜アリの行列は本当に“におい”でできるのか〜」澤田 優志 鳥取市立世紀小学校 3 年(鳥取県)

「チリメンモンスターをアップで見ると…」

藤田 紗矢 玉野市立築港小学校 5 年(岡山県)

「ドクダミの不思議」栃四小 ドクダミ研究班 栃木市立栃木第四小学校 6 年(栃木県)

<中学生部門>

「スナガニンジャⅦ ～赤碕海岸の自然度を探る～」赤碕中学校科学部 琴浦町立赤碕中学校
(鳥取県東伯郡)
「生物模倣の小型風車が出来るまで」佐藤 圭一郎 東京都立小石川中等教育学校3年(東京都)
「海の掃除機 アサリの力 パートⅤ」内田 悠雅 岡崎市立北中学校1年(愛知県)

特別賞

「20年にわたる継続的な研究への取り組みに対して～20年間続いている古見小のチョウ観察!!
～」古見小サイエンスクラブ 竹富町立古見小学校全学年(沖縄県)
「地域における科学映像教育の向上と環境整備への取り組みに対して」岡崎市教育委員会(愛知県)

平成26年12月14日、東京北の丸公園・科学技術館において、入賞作品の表彰式、上映会、講演会を行なった。

以上の成果を「第13回全国こども科学映像祭・成果集」にまとめ、全国の小中学校へ配布した。

3. 視聴覚教育研究者への井内賞贈呈事業

当協会の創立80周年を記念して設置された「日本視聴覚教育協会・井内賞」は、日本教育メディア学会が選考した、若手研究者の優秀な視聴覚教育に関する論文に対して研究費を授与し、今後の研究推進に寄与することを目的とした年度賞事業である。

以下の受賞が決定し、平成26年10月11日、12日の両日開催された第22回日本教育メディア学会年次大会の全体会で授与された。

なお、下記受賞論文を月刊「視聴覚教育」第68巻12号に掲載した。

「ICTを活用した経験学習を促す学習環境の要件－日本語教員養成の事例から－」「教育メディア研究」(第20巻第2号)岸磨貴子(明治大学)・大谷つかさ(国際交流基金)

4. 視聴覚教育を活用した教育方法改善事業

(1) ICTを活用した教育の推進に資する実証事業

文部科学省委託による平成26年度「ICTを活用した教育の推進に資する実証事業」を受託したNTTラーニングシステムズ株式会社の要請により、実証研究テーマ②「ICTの活用が最適な指導方法の開発」、テーマ③「教員のICT活用指導力向上方法の開発」における成果の取りまとめにあたり、監修助言を行った。

テーマ②では、ICT活用の効果が高いと考えられる25本の授業映像と、ICT機器導入の初期に陥りがちな効果の期待できない事例についての模擬授業映像1本からなる「ICT活用ステップアップ映像集」の製作にあたって、権利処理を含む映像製作のポイントを助言した。また、テーマ③では、研修モジュールからなるモデルカリキュラムと効果的な研修について解説した「校内研修リーダー養成のための研修手引き」、加えて各モジュールに付随した研修教材の権利処理を含む資料作成のポイントを助言し、事業を監修した。

(2) ICTを活用した社会通信教育に関する研究会

平成25年度文部科学省委託事業「社会通信教育において共通利用が効果的なICT活用システムに関する調査研究」を受託し、「ICTを活用した共通利用システムの在り方等に関する報告書」としてまとめ、一定の成果を得た。

報告書では、社会通信教育において共通利用が効果的なICT活用システムを稼働させるための「プラットフォーム」の構築と管理・運営の必要性が述べられている。当協会では新たに社会通信教育団体と連携して研究会を立ち上げ、「プラットフォーム」を構築するための研究を進めるにあたり、これまで、社会通信教育を推進してきた公益社団法人日本通信教育振興会並びに一般財団法人社会通信教育協会に、社会通信教育において共通利用が効果的なICT活用システムについての可能性についてヒアリングを行うなど、研究会の立ち上げに関する準備を進めた。

5. 子ども教材開発事業

(1) 平成 26 年度の開発

平成 13 (2001) 年度から、独立行政法人国立青少年教育振興機構 (当時・国立オリンピック記念青少年総合センター) が行う子どもゆめ基金の助成を受け、子どもたちの体験活動を促進するための教材を開発、普及し、視聴覚教材を活用した生涯学習活動に対して継続的に貢献している。

平成 26 年度は、10 年前に製作した「けん玉で楽しくあそんでみよう」CD-ROM 版コンテンツをインターネットで利用できる Web コンテンツに改変して提供する教材の開発を行った。日本けん玉協会理事長の山木弘行氏を開発委員に、同協会の支援を全面的に受け、3 回にわたる委員会を開催した。今回の教材は「けん玉パフォーマンス」の要素も練習に取り入れるなど、時代のニーズに合わせたものを制作し、ホームページ上にアップした。

(2) 平成 26 年度と平成 27 年度の 2 年間にわたる開発

また、平成 26 年度の助成では追加募集があったため、「スマホの落とし穴ー親子・地域で考えようー (仮題)」をタイトルとしたインターネット教材および DVD 教材の作成による企画に応募し、11 月 5 日付けで採択された。開発委員には白鷗大学教授の赤堀侃司氏、千葉県柏市立柏第二小学校長の西田光昭氏、全国 Web カウンセリング協議会理事長の安川雅史氏、同協議会理事の高橋泰之氏の 4 名に委嘱し、2 回の開発委員会を実施した。

同助成は平成 26 年度と平成 27 年度の 2 年間にわたる助成であり、平成 27 年度の助成も 4 月 1 日付けにて決定通知を受けた。同教材は、保護者向け Web コンテンツ、子ども向け Web コンテンツ (オムニバスドラマ)、子ども向け DVD コンテンツからなり、1 年目にあたる平成 26 年度は、親子 10 名程度によるグループインタビューを 3 か所で実施し、その時に実施したアンケート調査の結果とともに、それらを問題解決への取り組みを探索するための基礎データとした。2 年目にあたる平成 27 年度は、グループインタビューや、アンケート調査から「最新の利用状況」と「トラブルなどの問題点」を抽出して、日常生活における「スマホ問題」解決への取り組みをまとめ、保護者向け Web コンテンツや子ども向け Web・DVD コンテンツの内容に反映させるよう開発する。平成 28 年 2 月末に教材の完成、その後ホームページにアップし、同時に子ども向け DVD を放課後子ども教室や、視聴覚センター・ライブラリー、児童館などへ計 3,000 か所に無料配布する予定。

6. 国際教育メディア協議会 (I C E M) とその加盟国との交流事業

協会が日本の法人会員として加盟する I C E M と、その加盟国との情報交流から得られる情報について、月刊「視聴覚教育」誌等で情報提供した。

2014 年の「I C E M 総会」、「国際研究集会」は、10 月 8 日～10 日の 3 日間、ハンガリー・エゲルの・エステルハーヰ・カーロイ専科大学において開催された。

7. 賛助会員のための活動

当協会の賛助会員 (維持会員、研究会員) に対して、出版事業にかかる出版物を配布するとともに、会員の研究の場として、調査研究事業における研究発表会や全国大会等の機会についての情報提供を積極的に行った。

また、当協会の経営基盤をより強固なものとするため、賛助会員の拡充・確保に努めた。

8. 後援事業等

- ・第 56 回科学技術映像祭 ((財) 日本科学技術振興財団ほか)
- ・第 27 回すかがわ国際短編映画祭 (須賀川市教育委員会ほか)
- ・第 5 回国際科学映像祭 (国際科学映像祭実行委員会)
- ・New Education Expo 2014 (New Education Expo 実行委員会)
- ・e-Learning Awards 2014 フォーラム (e-Learning Awards 2014 フォーラム 実行委員会)
- ・第 40 回全日本教育工学研究協議会全国大会 京都大会 (日本教育工学協会)

- ・平成 26 年度第 1 回「先進的 I C T 利活用教育推進事業」成果発表会（佐賀県）
- ・「高校生 I C T 活用プレゼンテーション大会（プレ大会）」（佐賀県）

9. 庶務の概要

（１）役員会等に関する事項

1) 理事会

開催月日	議 事 事 項	会 議 の 結 果
平成 26, 6, 9 (第 256 回)	1. 平成 25 年度事業報告書（案）について 2. 平成 25 年度計算書類（案）について 3. 監査報告について 4. 公益目的支出計画実施報告書等について	原案どおり承認された 原案どおり承認された 原案どおり承認された 原案どおり承認された
平成 26, 6, 27 (第 257 回)	1. 会長及び常務理事の選定について 2. 職務権限規程（案）について	原案どおり承認された 原案どおり承認された
平成 27, 3, 17 (第 258 回)	1. 基本財産の取り崩しについて 2. 事務所の所在場所の変更について 3. 「臨時評議員会」の開催の決議 4. 平成 27 年度事業計画書（案）について 5. 平成 27 年度収支予算書（案）について 6. 「定時評議員会開催の決議」について	原案どおり承認された 原案どおり承認された 原案どおり承認された 原案どおり承認された 原案どおり承認された 原案どおり承認された

2) 評議員会

開催月日	議 事 事 項	会 議 の 結 果
平成 26, 6, 20 (第 162 回)	1. 平成 25 年度事業報告書（案）について 2. 平成 25 年度計算書類（案）について 3. 監査報告 4. 「理事選出」（案）について 5. 公益目的支出計画実施報告書等について	原案どおり承認された。 原案どおり承認された。 原案どおり承認された。 原案どおり承認された。 原案どおり承認された。
平成 27, 3, 23 (第 163 回) 臨時評議員会	1. 基本財産の取り崩しについて 2. 事務所の所在場所の変更について 3. 「定時評議員会開催の決議」について	原案どおり承認された。 原案どおり承認された。 原案どおり承認された。

※事務所の所在場所の変更について

事務所を置く「虎ノ門 1 丁目森ビル」の界限は再開発計画が明確となり、退去して欲しい旨の要請が森ビルからあった。理事会、評議員会に諮り、平成 27 年 4 月 1 日を持って「虎ノ門 PF ビル」（東京都港区虎ノ門 3-10-11）に移転することになった。

（２）契約に関する事項

1) 定期建物賃貸借契約

平成 27 年 3 月 31 日において「一丁目森ビル」の賃貸借契約満了により、転出を要請され、新しい所在場所について森ビルより「虎ノ門 P F ビル」が提示された。諸事勘案した結果、その提案を受け平成 27 年 3 月 25 日に森ビル株式会社と定期建物賃貸借契約を締結した。

賃貸借期間 平成 27 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日 面積 地下 1 階 219.67 m²

(3) 寄附金に関する事項 該当なし

(4) 主務官庁指示に関する事項 該当なし

(5) その他特記事項

1) 平成 26 年度秋の叙勲で常務理事岡部守男氏が視聴覚教育普及振興の功勞により旭日双光章を受章した。

2) 協会賛助会員 (平成 27 年 3 月 31 日現在)

維持会員 57 (団体・社) 前年度 59 (団体・社)

研究会員 22 (機関・団体・社・個人) 前年度 24 (機関・団体・社・個人)

附録

1. 役員等に関する事項

H27.3.31 現在

役 名	氏 名	就任年月日	略 歴
会 長	生 田 孝 至	H 20. 7. 1	新潟大学名誉教授
常 務 理 事	岡 部 守 男	H 6. 7. 1	
理 事	赤 堀 侃 司	H 22. 7. 1	東京工業大学名誉教授
同	黒 田 壽 二	H 9. 12. 4	金沢工業大学学園長・総長
同	銭 谷 眞 美	H 24. 6. 22	東京国立博物館長
同	山 本 恒 夫	H 16. 6. 14	筑波大学名誉教授
監 事	川 畑 慈 範	H 22. 7. 1	東京書籍㈱代表取締役社長
同	細 川 雅 由	H 22. 7. 1	エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ㈱ 取締役第三営業本部長

役 名	氏 名	略 歴
評 議 員	浅 井 経 子	八洲学園大学教授
同	坂 井 知 志	常磐大学教授
同	篠 原 文陽児	東京学芸大学名誉教授
同	伊 藤 敏 朗	東京情報大学教授
同	波多野 和 彦	江戸川大学教授
同	吉 川 刀 夫	全国視聴覚教育連盟副会長
同	井 口 磯 夫	日本視聴覚教具連合会会長
同	高 橋 秀 明	公益社団法人映像文化製作者連盟副会長
同	大久保 昇	㈱内田洋行取締役社長
同	山 口 浩	東映㈱教育映像部長執行役員
同	天 道 善 行	パナソニックシステムネットワークス㈱システムソリューションズ ジャパンカンパニー教育ソリューションTF 参事

役 名	氏 名	略 歴
名 誉 会 長	井 上 孝 美	元文部事務次官

役 名	氏 名	略 歴
顧 問	高 村 久 夫	元文部省主任社会教育官
同	中 野 照 海	国際基督教大学名誉教授
同	清 水 康 敬	東京工業大学名誉教授

2. 事務局職員名簿

H27.3.31 現在

職 務	氏 名	就任年月日	担 任 事 務	備 考
事 務 局 長 兼 編 集 長	下 川 雅 人	S 60. 1. 1	出版、研究・開発	
事務局次長	佐 藤 正	S 62. 8. 1	国際交流、研究会、出版	
経 理 担 当 主 務	久 永 直 人	H 13. 10. 1	経理、庶務、団体関係	
事 務 職 員	尾 島 美 枝	H 12. 4. 1	出版、自作教材	
事 務 職 員	郡 谷 寿 英	H 19. 4. 1	研究・開発	
事 務 職 員	渡 邊 恭 子	H 26. 4. 1	庶務一般	